

2019 ミズベリング信濃川やすらぎ堤 開催に向けた改善策

意見概要	対応方針	具体策	特記仕様書にて 評価指標, 報告方法 を明示
<p>1. 事業目的の段階的な評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目的として計上されている <ul style="list-style-type: none"> ① やすらぎ堤の利用促進 ② 来街者の誘致の拠点 ③ 回遊性の向上 …に対して達成度合を評価すべき。 ・ 滞留時間が伸びているといえるかもしれないのでそうした面からも評価すべき 	<p>①～③に関連する取組み内容を把握し進捗・成果を評価に取り入れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PR セールス活動の推進 ・イベント実施（概要, 参加者数等） ・利用者数 …などの指標を評価に用いる 	<p>特記仕様書にて 評価指標, 報告方法 を明示</p>
<p>2. イベント評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントは回数のみでなく, 参加人数やイベントの質においても評価すべき 	<p>イベントの参加人数や内容について報告を求める。また, イベントについては事前に全体の計画を明示し, 関係機関との調整を十分に行う</p>	<p>特記仕様書にてイベント参加人数や開催概要についての報告を義務付け</p>	
<p>3. 広報戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チラシ等の有効性を含めて, トータルの広報戦略が必要 ・ 市民に広く知ってもらうためにも戦略が必要 	<p>広報について, 総合的な戦略を構築する</p>	<p>若年層やリピーター, 観光客等, それぞれのターゲットに対して, どのような媒体でどんな情報を提供するか検討</p>	<p>SP の事業計画にて 具体策を検討</p>
<p>4. 回遊性の向上（イベントとの連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水と土の芸術祭などのイベントと連携できていなかった 	<p>近隣での他主体によるイベントとの連携を図る</p>	<p>市で関連しそうなイベントを抽出 SP, 出店者で連携の可能性を検討</p>	
<p>5. 利用者ターゲットについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような属性の人にきてほしいか 	<p>特定の利用者層に限定しないが, それぞれの属性とどのようにコミュニケーションをとるかを検討する。</p>	<p>一人様, 家族連れなど多様な楽しみ方ができることを発信</p>	
<p>6. ブランディングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やすらぎ堤スタイルの構築 	<p>スタイルの確立のための知見を構築し, 継続的に検討を続ける</p>	<p>ブランディング強化, スタイルの明確化をより具体化。 (事業者による利用者へのアンケートや出店者発案の取組み, 研究会との連携など)</p>	